

「専門家チームによる巡回相談」のご案内



(特別支援教育総合推進事業「専門家チーム」)

1 「専門家チームによる巡回相談」について

幼稚園等、小・中学校及び高等学校からの申し出に応じて、巡回相談を実施し、発達障がい等の状況の把握や、望ましい教育的対応に関する助言を行うことを通して、管内の特別支援教育の充実を図ります。



2 相談対象について

特別な教育的支援が必要な幼児児童生徒が在籍している各学校等

※各学校等から保護者に巡回相談の説明を行い、事前に同意を得てください。

※幼児児童生徒が在籍する学級種は問いません。



3 巡回相談員について

十勝管内専門家チーム委員(12名)が巡回相談員を行います。

※原則、教育局1名、学校教諭又は福祉1名の2名の委員を派遣します。

校種、職種など	所属、氏名	
特別支援学校(4名)	北海道帯広盲学校 教諭 大橋 舞	北海道帯広聾学校 教諭 有江 謙吾
	北海道帯広養護学校 教諭 清末 美香	北海道中札内高等養護学校 教諭 阿部 枝里子
小学校(2名)	幕別町立白人小学校 教諭 島 訓子	帯広市立明和小学校 教諭 本田 隆博
中学校(2名)	音更町立駒場中学校 教諭 渡辺 友弘	帯広市立南町中学校 教諭 矢内 敏章
高等学校(1名)	北海道大樹高等学校 教諭 半澤 修	
保健(1名)	SC・公認心理士 心理士 鹿川 靖子	
教育局(2名)	義務教育指導班(特別支援教育スーパーバイザー) 指導主事 加藤 章芳	高等学校教育指導班 指導主事 加藤 涉

各学校等における「専門家チームによる巡回相談」活用の考え方

子どもの困難等について、校内委員会や保護者面談等で相談を行っているが、なかなか解決方法を見つけることができない。

- 例) 「弱視や難聴に関する指導方法や支援方法の工夫が知りたい」
 「感情や行動をコントロールするための指導や支援を知りたい」
 「子どもの学習や生活の困難の背景にあることを丁寧に探りたい」
 「学校が行っている支援や指導について、校外の視点から見直したい」など



【問合せ先】 十勝教育局義務教育指導班：0155-26-9241

※申込手順や派遣要請票様式を十勝教育局Webページに掲載しています

(<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ky/gakyo.htm>)

「専門家チームによる巡回相談」の概要

申込期間	・令和5年（2023年）7月～令和6年（2024年）1月
相談回数	・必要に応じて、複数回の実施可能です。
目的	・各学校等に、 <u>幼児児童生徒の発達段階に応じた支援の方策や教育課程の編成や実施等を助言</u> ※原則、当日には授業参観及びカンファレンスの実施をお願いします。
保護者対応	対応可能 ※原則、 <u>学校教職員等の同席</u> をお願いします。
研修会講師	対応不可 ※研修会講師の要請は、教育局の要請訪問を活用ください。
諸検査の実施	対応可能 ※各学校等が支援の方策を決定するために実態把握が必要な場合。 ※障がいの判定や知能指数の算出を目的とした実施は行いません。
その他	・私立の幼稚園、保育所、認定こども園、高等学校も対応可能です。 ・巡回相談で対応した相談の主訴及び助言内容等については、「特別支援教育総合推進事業」の取組として、特別支援連携協議会で報告します。

「専門家チームによる巡回相談」を活用した各学校等の感想例

□ 幼児教育施設

相談前

もっとみんなと一緒に遊んでほしいんだけどなあ。

相談後

騒がしい場所は苦手だから、徐々に集団に慣れる段階を設定してみます。

□ 小学校（通常の学級）

相談前

もう2年生になるけど、まだ書けない平仮名があるんだよなあ。

相談後

見て覚えるだけでなく、聴いて覚える学習方法を試してみます。

□ 中学校（通常の学級）

相談前

毎日伝えているのに、どうして忘れ物が多いのだろう。

相談後

SHRで、明日の持ち物を自分でメモする方法を放課後に練習してみます。

□ 高等学校

相談前

この生徒は、板書が遅くて、授業についてこれないんだよなあ。

相談後

板書の量を減らして、先生の話に集中できるように工夫してみます。



市町村と各学校等の特別支援教育体制づくりの充実に向けて、各学校等だけでは、判断が難しい実態把握や指導方法、支援方法に関する悩みの解決を目的としています。市町村及び各学校等で活用を検討し、御申込みください。